

# 令和7年度とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小規模保育所ハーモニー・キッズ
法人名	有限会社ハーモニー・キッズ
法人所在地	杉並区高井戸東2-29-13

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

水と光

<テーマの設定理由>

水や光は日常の中に身近に存在しながらも形や色、動きが変化しやすく、不思議さや美しさを感じやすい素材であることからこのテーマを設定した。また、季節や環境に応じて多様な体験へと発展させることができるため、継続的な取り組みにもつながると考えた。

## 2. 活動スケジュール

6月 プール開き 水遊び 7月水遊び セロファンを使った光遊び 懐中電灯を使ったナイトサファリ遊び 影絵遊び 影絵劇鑑賞会

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

安全すのこマット 発泡ミニブロック 影絵グループあけびの会 水遊び用玩具  
ステップ2レインシャワーウォーターテーブル 透明カップ 絵具 セロファン

水遊びでは、たらいに水を入れ、ジョウロやコップ、水遊び用玩具（小物）などを用意し子どもたちが自由に水に触れて遊べる環境を整えた。また、透明カップに色水を入れて光にかざして見られるようにしたりトイレトペーパーの芯を使ってスタンドグラス望遠鏡を作ったりして、光や色の変化を楽しめるようにした。また、影や光の変化を楽しめるように、部屋を暗くして懐中電灯を使った影絵遊びの環境を整えた。さらに、影絵グループあけびの会を招き、影絵シアターを鑑賞する機会を設けた。上演後には実際に人形に触れたり、スクリーンに人形の影を映する体験をさせてもらい、光と影への興味を深めることができた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

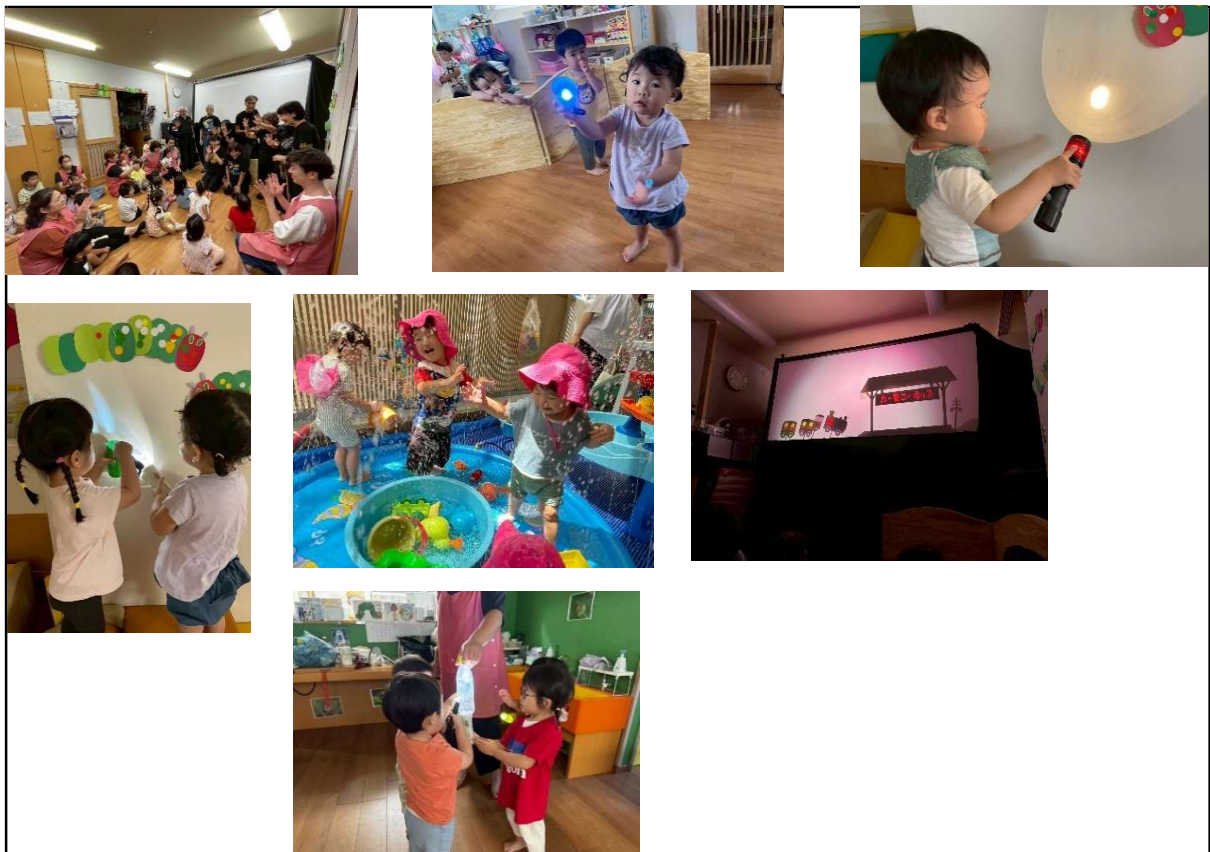
水遊びでは、たらいに水を入れ、ジョウロやコップ、水遊び用玩具（小物）などを用意し、自由にすくう・流す・入れるといった体験ができるようにした。水の量の変化や浮く・沈むといった違いを体感できる環境を整えた。光の活動では、透明カップに色水をいれて光にかざし、色の変化を楽しんだ。また、トイレットペーパーの芯を活用してステンドグラス風の望遠鏡を制作し、のぞいて見える色の広がりを味わった。室内を暗くし懐中電灯で動物ポスターを照らすサファリごっこや影絵遊びを行い、光と影の関係に触れる機会を設けた。さらに外部で影絵劇団を招いて影絵シアターを上映した。鑑賞後には実際に使用した人形に触れさせてもらい自分たちでスクリーンに影を映す体験を行った。見る体験から、触れる・動かす体験へと発展させることで光と影の興味が深まるようにした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水の中に小物（水遊び用玩具）を入れて沈む様子を何度も確かめたり、容器を変えて水の流れ方の違いを試したりする姿が見られた。色水を光にかざして「きれい」「あかになった」などと気づきを言葉や表情で表す姿もあった。暗い空間での活動では、少し緊張しながらも光を見つけると嬉しそうに指差す様子が見られた。影絵シアター後には、人形を動かしながら影が大きくなったり小さくなったりする変化を楽しみ、位置を変えて繰り返し試す姿が見られた。

##### 保育者との関わり

保育者は活動を一齐に進めるのではなく、子どもが自ら試す時間を十分に確保した。結果を急がせず、「どうなるかな?」「やってみる?」と問いかけることで、考える時間を大切にしました。暗い空間で不安を感じる子どもには、そばで安心できるよう関わりながら、無理のない参加を心がけた。影絵体験では、操作の仕方を簡単に伝えた後は見守り、子どもが自分で工夫できるよう援助した。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動後の振り返りを通して、子どもたちは私たちが思っている以上に、身近な自然現象に対して敏感に気づき、繰り返し確かめようとする姿があることを再認識した。

水遊びや光の活動では、保育者が意図したねらい以上に、子ども自身が発見を広げていく姿が見られた。特に、影の大きさの変化や水の流れの違いなど、小さな変化に気づき何度も試す様子から、環境設定の重要性を改めて感じた。

また、活動を一斉に進めるよりも、十分な時間と素材を保障することで、子ども同士の関わりや主体的な試行錯誤が自然に生まれることに気づいた。

さらに、行事や制作へと活動を広げることで、体験が単発で終わらず、子どもの興味が継続・発展していくことも確認できた。

振り返りを通して、保育者が援助しすぎず、見守る姿勢を持つことが、子どもの探究心や自信につながることを改めて学ぶ機会となった

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小規模保育所ハーモニー・キッズ
法人名	有限会社ハーモニー・キッズ
法人所在地	杉並区高井戸東2-29-13

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の生き物

<テーマの設定理由>

散歩の途中や公園などで虫を見つけると立ち止まって観察したり、「これなあに？」などと興味を示したりする姿が多く見られた。子どもたちが身近な自然や生き物に関心を持ち、見つける喜びや発見する楽しさを感じられるように、このテーマを設定した。また、虫探しや野菜の収穫などの体験を通して、自然に触れながら季節の変化を感じたり、友だちと発見を共有する経験につなげていきたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

- ・園周辺や散歩先での虫探し。・見つけた虫を写真に撮り図鑑で調べる。
- ・虫の名前や写真見つけたこのマークを貼り、壁面に掲示する。・サツマイモ苗植え
- ・ジャガイモ掘り・サツマイモ掘り・収穫したサツマイモを使ったスイートポテトづくり
- ・夏祭りで虫をテーマにした制作や虫とりコーナーの設置
- ・運動会で虫をテーマにした出し物や虫のダンス

※2025年4月から継続して実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

図鑑 虫かご 虫とり網 模造紙 写真袋 折り紙 画用紙 サツマイモ苗 紙皿 画用紙 絵具

園や散歩先で見つけた虫を記録できるように写真を撮り、図鑑で調べた内容と一緒に壁面に掲示した。誰が見つけたかわかるようにマークをつけ子どもたち同士で発見を共有できるようにした。夏祭りでは、虫をテーマにした制作を行い階段の壁面に飾るなど園内でも自然や生き物に興味広がる環境作りを行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

散歩先で虫探しを行い、見つけた虫は写真に撮って掲示した。図鑑を見ながら名前や特徴を調べ、壁面に掲示することで、子どもたちがいつでも見ることができるようにした。また、誰が見つけた虫か分かるようにマークをつけ発見の喜びを共有した。サツマイモの苗やサツマイ掘り、ジャガイモ掘りなども行い、土に触れながら収穫する体験をした。掘った場所から虫を見つけることもあり、子どもたちは興味を持って観察する姿が見られた。収穫したサツマイモはスイートポテト作りに使用し、食育にもつながる体験となった。また、夏祭りでは虫をテーマにした製作を壁面に飾り、虫とりコーナーを設置した。運動会でも虫をテーマにした出し物や虫のダンスを取り入れ、日頃の興味を行事へと広げて行った。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

園周辺や散歩先で虫探しを行う中で、「どこにいるかな?」「ダンゴムシいたよ」「見せて」と子ども同士で発見を共有できるように声をかけたり、見つけた虫と一緒に観察する機会を大切にした。また、見つけた虫は写真に撮り、図鑑で名前や特徴を調べて壁面に掲示した。誰が見つけた虫か分かるようにマークをつけることで「〇〇ちゃんがみつけたむしだね」と友達の発見にも興味を持てた様子であった。また、自分が見つけた虫であることに自信をもつ姿も見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

虫探しや収穫体験などの活動を通して、子どもたちは身近な自然や生き物に興味を持ち、自分たちで見つけたことを友だちや保育者に伝える姿が多く見られた。また、友だちがみつけた虫と一緒に見たり、「ここにいるよ」と教え合ったりするなど発見を共有する姿も見られた。写真や図鑑、掲示物などを通して子どもたちの発見を見える形にすることで、興味や関心が継続し、自然へのかかわりが広がっていくことに気づいた。さらに虫をテーマにした活動を夏祭りや運動会などの行事に広げることで、子どもたちの興味を継続した形で深めることができた。今後も自然に触れる体験を大切にしながら子どもたちの「みつきたい」「知りたい」という気持ちを大切にしたい保育を行っていきたい。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小規模保育所ハーモニー・キッズ
法人名	有限会社ハーモニー・キッズ
法人所在地	杉並区高井戸東2-29-13

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音とリズム

<テーマの設定理由>

子どもたちが音楽やリズムに自然と体を動かし表現することを楽しんでいる姿から、音楽に合わせて体を動かしたり、友達や保育者と一緒に活動したりすることで楽しさや心地良さを感じながら表現する力や友達との関わりが育つと考え、このテーマを設定した。リトミックなどの活動を取り入れながら、音やリズムに親しむ機会を継続的に設けたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

2025年4月～2026年3月

月2回

2月に親子リトミックをクラスごとに行う。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

月に2回、外部講師によるリトミックを行い、音やリズムに親しむ活動を取り入れた。外部講師と相談しながら、体を動かす活動を取り入れる。また、2月には保護者参加の親子リトミックを開催する。

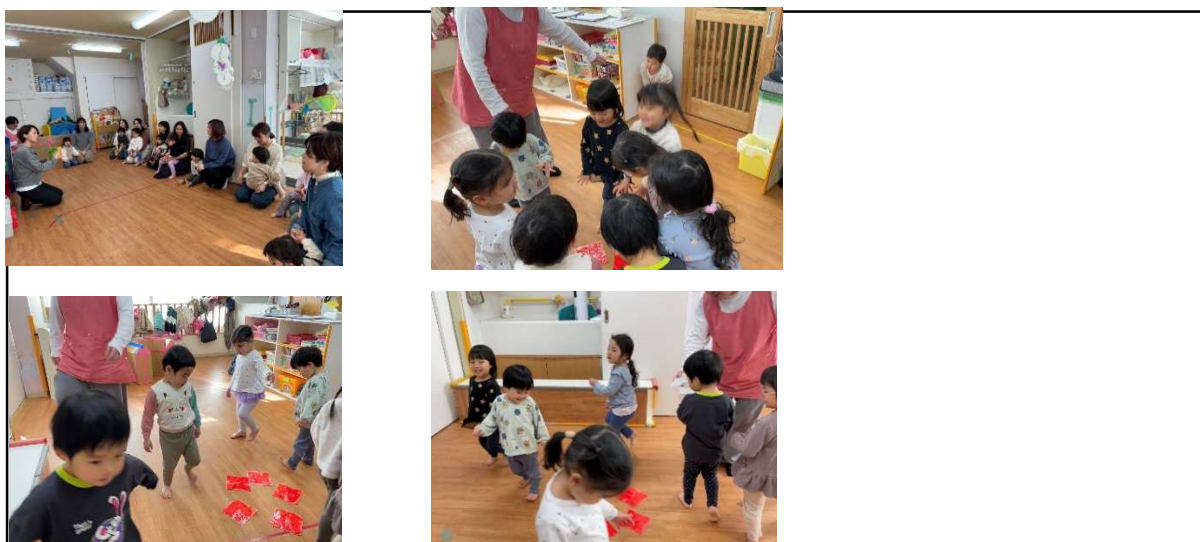
#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

月に2回、外部講師によるリトミックを行い、音楽やリズムに親しむ活動を取り入れた。外部講師と相談しながら、子どもたちの発達に合わせて、歩く・止まる・ジャンプするなど、体の動きを促す活動を取り入れ、音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じられるようにした。さらに、2月には保護者参加の親子リトミックを開催した。親子と一緒に体を動かしたり、触れあいながら音楽を楽しんだりすることで家族でも音やリズムに親しむきっかけ作りとなった。また、3月には2歳児がミュージックベルを使い、「チューリップ」の演奏も行った。自分で音を鳴らすことを楽しみながら、音楽に親しむ姿が見られた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

音楽が流れると体を揺らしたり、ジャンプをしたりするなど、楽しみながら体を動かす姿が見られた。友達の動きを見て真似をしたり、一緒に楽しむ姿もあり、自然と友達との関わりが生まれていた。保育者は、子どもたちと体を動かしたり、安心して参加できるよう声を掛けたりしながら活動を進めた。子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切に、無理のない形で活動できるよう配慮した。親子リトミックでは、保護者と手をつないだり抱っこしてもらったりしながら活動を楽しむ姿が見られ、安心した表情で参加する子どもたちの姿が印象的であった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

音やリズムに合わせて体を動かす活動を通して、子どもたちが楽しみながら自然に表現する姿が見られた。また友達の動きをみて、真似したり一緒に楽しんだりすることで、子ども同士の関わりも広がっていった。親子リトミックでは、保護者と一緒に活動することで子どもたちの安心した姿が見られ、家族でも音やリズムに触れるきっかけになると感じた。

今後も音楽多リズムを取り入れた活動を通して、子どもたちが楽しみながら表現する機会を大切にしていきたい。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小規模保育所ハーモニー・キッズ
法人名	有限会社ハーモニー・キッズ
法人所在地	杉並区高井戸東2-29-13

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

友だちとの関わり

<テーマの設定理由>

遊びを通して友達と関わる経験を重ねながら、友だちとの関わりや思いを伝える力を少しずつ育てていく時期である。日常の保育の中でも友達の遊びに興味を持って近くで見たり。同じ遊びを真似したりする姿が見られるようになってきた。そこでおままごとやごっこ遊びなどを通して、子ども同士が自然にかかわりを持ちながら遊ぶ経験を大切にしたいと考えこのテーマを設定した。遊びの中で、「どうぞ」「ありがとう」などのやり取りを楽しんだり、役割を持って関わったりすることで、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

- ・日常の保育の中で、おままごとコーナーを設置しごっこ遊びを楽しむ。
- ・友達と一緒に遊ぶ経験を重ねる。
- ・お店屋さんごっこや家族ごっこなど役割を持った遊びを取り入れる。
- ・保育者が仲立ちとなりながら子ども同士のかかわりを広げていく。

2025年4月～継続して実施 日常の保育の中で実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども同士のかかわりが自然に生まれるようにおままごとコーナーを作り、食器やテーブル、人形などを用意した。また、お店屋さんごっこなど役割を持って遊べるように環境を整えた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

おままごとコーナーを設置し、人形や食べ物のおもちゃ、食器などを用意して、子どもたちが自由にごっこ遊びできる環境を整えた。遊びの中では、家族ごっこやお店屋さんごっこを楽しみながら、「どうぞ」「ありがとう」「まってね」など言葉のやり取りをする姿が見られた。友達に食べ物を渡したり、一緒に食べる真似をするなど、友達と関わりながら遊ぶ姿が見られた。また、人形やおもちゃを大切に扱う姿や、遊んだ後に片づけようとする姿も見られた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

おままごとコーナーでは、「ごはんどうぞ」「いただきます」などの言葉のやり取りをしながら遊ぶ姿が見られた。友達にたべものを渡したり、同じテーブルで食べる真似をしたりするなど、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ様子があった。また、「おかあさん」「あかちゃん」「おとうさん」などの役になりきって遊ぶ姿も見られ、遊びの中で役割を持ちながら関わる様子も見られた。保育者は子どもたちのやり取りを見守りながら、やり取りのヒントになるような声掛けをし、友達とのかかわりが広がるように関わった。また、友達への貸し借りや順番を待つことなど丁寧に伝えるようにした。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

ごっこ遊びを通して、子どもたちは友達と関わる楽しさを感じながら遊ぶ姿が見られた。遊びの中で言葉のやり取りをしたり、役割を持って関わったりすることで友達との関係が少しずつ広がっていくことに気づいた。また、保育者が仲立ちとなりながら関わることで子ども同士のやり取りが生まれ、遊びが広がっていくことが分かった。今後も子どもたちが安心して友達と関わるができる環境を整えながら、関わりの楽しさを感じられる保育を大切にしていきたい。